

# 06

## デザインワークス

### Design Works

デザイン学科・非常勤講師  
Department of Design・Part-time Lecturer

渡部 紀綱 Noritsuna WATANABE



Illustration, 2015年  
作品題名「仕上げる」、素材、サイズA-1、イラストレーションボード、アクリルカラー

2015教員展(共通課題「手」)出展作品。本イラストレーションの題名は「仕上げる」。モチーフは赤色の内掛けである。日本の伝統的な内掛けは手縫いで仕上げられる。その現物を素材として描く過程で、「仕上げ」の大事さを再認識するとともに、手仕事のアート/デザイン性に触れることを目指した。

描画コンセプトは、画面全体としてのまとまり感を保ちながらも、二つの見せ場を際立たせる事とした。一つ目は、手で襟を縫う「仕上げ」の最終工程場面を特徴的に描き、目線集中を図る事。方策として、アシンメトリー三角形を画面中心に配し、パースペクティブを強めた奥行き空間を創り、その頂点に手と襟を配置した。視覚的に解り易くする狙いである(図1)。加えて、後身頃の表面にツヅラ折りの部分的な膨らみを付、目線が頂点に導かれるように構成し、効果の倍加を狙った(図2)。又、モチーフ上部には逆光を与え、背景とのコントラストを強めると同時に、両手の色を無彩色として、有彩色部とカラー対立をさせるなど、色彩による目線集中をも図った。

二つ目は、内掛けの豪華絢爛で高品質な絵画性の再現である。最も重要なポイントとして、内掛けの持つ赤色の再現に拘った。地色の赤色は、日本の伝統色の中では、太陽や血の色と言われているが、カラー特定(カラー調合)は容易ではなかった。三角形には後身頃の多彩なパターンと組み合わせの吉祥文様を立体的に構成し、華やかさと厚み感を表現した。

内掛けは、羽織った時の華やかさが見せ場であるが、このように、再構成して観察し、描いてみると、単なる日本の伝統文化再現の意識以上にそのアート/デザイン性に富んでいる事に驚かされる。

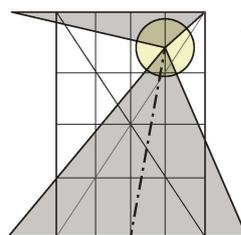


図1/アシンメトリー三角形構図

丸印/三角形頂点に  
手と襟描画

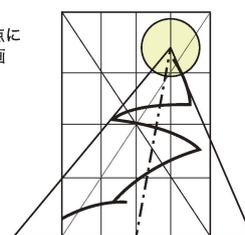


図2/ツヅラ折り



Industrial Rendering 2015年  
 作品題名「車のコンセプトデザイン／副題 Less is More」、素材、F20号 油絵

作品題名「車のコンセプトデザイン／副題 Less is More」。車のレンダリング機能と油絵としての見応え感の両立を目指した。

FCEVの商品化、自動運転車の導入など車の新時代が近い。車のデザインにおいても新しい価値を持ったイノベーティブな形が期待される。本案は、それら課題に適合すべく創作したミドルクラスの近未来車コンセプトデザインである。使用環境との調和と存在感具現を狙い、Mies van der RoheのLess is Moreを参考に、形の虚飾を排し、外板部分とガラス部分で三次元立体を包み込むシンプルで力強いワンモーション造形を試みた。

使用環境を広く配した画面の中で、車の印象を強める為、ブルー／グリーン系と、イエロー／オレンジ系の色彩を対比させ、強い「補色効果」を創り、くっきり感による引き立てを図った。背景も同じ色彩構成として、全体的には透き通ったイメージに仕上げた。又、画面を対角線で二等分し、左側画面三分割の交点A(図1)に車を置き、手前空間に登り上がるイメージを表現。反して、右側交点B(図1)の建物は奥の空間への収束を示し、

相反する強い動感や方向性を車に与え、誇張を図った(図1)。

車には独立した目線と位置を与えた。立体的構図の退屈な遠近法画面を避け、車の観る角度を自在にコントロール出来る利点がある。全体デザインは、理解し易い典型的なフロント3/4ビューとした(図2)。今回のような車の油彩レンダリングは今後もトライしたいと思っている。

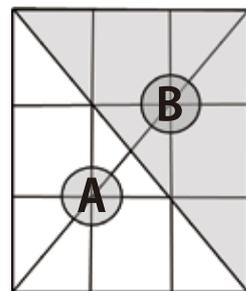


図1 / 三角面による対比構図とモチーフの配置

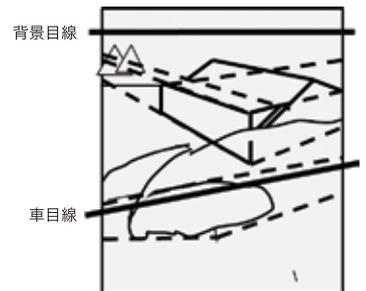


図2 / 車の独立した目線